

平成 24 年 11 月 6 日

海外実習演習レポート

— science communication research group oversea internship

国際開発工学専攻 花岡研究室 修士一年 谷 蘊

1、はじめに

平成 24 年 8 月 14 日から 23 日まで十日間、ロンドンでサイエンスコミュニケーションに関するインターンシップに行ってきました。今回のインターンシップの趣旨は海外の科学技術政策機関や科学館等において業務の一端を体験する活動を通じて、自らのキャリアパスや科学技術コミュニケーションを社会的に捉えます。今回私が参加したのは **Science Communication Research Group** というグループです。メンバーが自らサイエンスコミュニケーションに関連する政策機関や科学館等に訪問して、イギリスの科学技術に体験するインターンシップでした。

2、主な活動

滞在中、Tate Modern, Royal Institution, Science Museum, Wellcome Collection, Dana Centre, POST, Kew Garden and Royal Society の 8 箇所を訪ねて、見学やインタビューをしてきました。イギリスのサイエンスコミュニケーションは世界中優れているので、工業革命とほぼ同じくらいに始まりました。

Tate Modern



先鋭的な美術作品が並ぶ。常設展示には、部屋の雰囲気も含めて魅せるための工夫がなされています。

また、現代芸術に視点を置く美術館らしく、タッチパネルなどの IT 技術を活用した施設をしばしば見かけました。科学技術を利用した芸術展示は、逆に芸術を利用した科学技術展示に活用できそうです。

平成 24 年 11 月 6 日

Royal Institution Museum



東工大の 100 周年記念館あるいは、トヨタテクノミュージアムのような技術遺産の展示をするタイプの科学館です。体験型施設はほとんどなく、子供向け施設ではありません。

Science Museum



全体的な印象としては、展示の規模が非常に大きいにもかかわらず、ブースごとに分かれてそれぞれのテーマがはっきりと示されているので理解しやすいです。体験できるコーナーも数多く、簡単な実験をするもの、タッチパネルを用いたゲームには人が多く集まっていました。展示内容も歴史的なものだけでなく、最新の科学技術の話題も豊富で、どのコーナーにも体験スペースや見た目のインパクトがある展示をしており、特定の分野だけでなく、まんべんなく興味を持てるよう工夫されていたように感じました。

Dana Centre



平成 24 年 11 月 6 日

Science Commutation に対する取り組みについて解説を受けました。日本では、あまり意識して見ていなかった展示物も見られ、科学技術に対する日本との違いに触れることができたと感じました。

Royal Society



1660 年に設立し、科学を一般市民向けに展示する努力を続けています。政府、科学者、学校などを連合して、科学大会、展示会、公開講座や科学賞等の形式を通じて、科学者内の関係や、科学と一般国民の関連性を深めることをしてきました。

3、滞在中に行った勉強 研究以外の体験について

アジア人として、ヨーロッパを初めて行ってみました。アジアと大きな違いがたくさんありまして、毎日新鮮で楽しかったです。

まず、今まで中国や日本、アジア人の国に過ごしてきましたが、イギリスに行ったら、初めて自分が外人になっていますという気持ちになりましたので、不思議な感じでした。ヨーロッパと言っても、ロンドンでは半分以上は外国人といって、周りの人がしゃべっているのは英語ではないことにびっくりしました。

次に、食べ物の違いが大きかったです。果物の種類が豊富で安いです。乳製品が安かった感じがします。店で食べると高いですが、自炊したらそこまでかからないことに気づきました。先進国で、生活は便利です。交通費がとても高いですが、バスや地下鉄など路線があらゆるところにあつて、道を迷うことの心配はありませんでした。

そして、ちょうどオリンピックの後に行つたので、まだ観光客が多かったせいで、町が混んでいました。ですが、渋谷のような混雑して前に進むことが難しいような状況はなかったです。東京より人口密度が小さいからだと思います。混んでいても、高いビルの下で、人は他人を気にせずゆつくりと広い道路を歩いていて、とても気持ちよかったです。

4、感想

平成 24 年 11 月 6 日

今回のインターンシップを通じて、短い期間ですが、アジアとヨーロッパの違いが少しわかるようになって、科学技術がはるかに進歩していることに気づきました。自分は中国人であつて、日本と中国、イギリスと中国、そして、日本とイギリスの三つの視点から、物事を考えて比べました。中国はまだ発展途上国であつて、先進国に比べて生活の利便性、科学技術の発展性などはまだまだ頑張らなければならないところがたくさんあります。日本は豊かな国で、国民がルールを守りながら、きちんと生活を送っている国です。イギリスは包容力があつて、大きな部屋、大きな道、大きなサンドイッチで、誰でも気持ち良く生活できる国だと思います。

なぜ先進国は発展しているのでしょうか、どうしたら自分の国は先進国になれるのでしょうかという課題を抱えて、これから日本で生活し続けるうちに、他の途上国や先進国にできるだけ行って見て、答えを出すよう勉学 研究していきたいと思います。

(以上)